

名古屋外国語大学 2021

世界共生学部 世界共生学科

Nagoya University of Foreign Studies Department of Global Governance and Collaboration

世界を複眼的に捉える力を養い、多文化共生についてアクティブな経験を

「世界共生学科」とは、世界各地の人が一緒に暮らす「多文化共生社会」を意識した、新たな学びに挑戦する学科です。

「グローバルコミュニケーション」の観点から、複数の外国語を徹底学習。

文化摩擦や国際問題を解決できる人材を目指して、世界各地の文化や社会の研究「グローバルリサーチ」をします。

さらに、留学をはじめとした多くのグローバル体験「グローバルチャレンジ」を積み重ねながら、複眼的なものの見方と行動力を身につけます。

多文化共生の実情と課題を
現場で考察する
アクティブな経験

グローバル
チャレンジ

グローバル
リサーチ

言語のみでなく地域に関する
専門知識を身につけ、
その地域のスペシャリストとなる

グローバル
コミュニケーション

世界情勢について議論が
できる英語力を培い、
実践的に英語を使える人材へ

「世界各地で活躍できるグローバル人材」を育成

世界共生学部長 鈴木茂教授

世界で進む多文化社会化を「歴史的、社会的な視点をもちつつ
地域に寄り添って分析・理解できる人材」を育成します。
世界共生学部で体験できる地域創生学や国際ボランティアは、
フィールド体験を通してグローバル化時代に必要な
タフな能力と素養を身につけることをねらっています。

1956年生まれ。東京外国語大学外国語学部卒業、歴史学・ブラジル地域研究。
「人種デモクラシー」への反逆—アブディアス・ド・ナシメントと黒人実験劇場(TEN)」
真島一郎編『20世紀＜アフリカ＞の個体形成』平凡社(2011年)、
『史料から考える 世界史20講』岩波書店(2014年)など

Follow us!



@nufscollabo





グローバルコミュニケーション

世界情勢について議論ができる英語力を培い、
実践的に英語を使える人材へ

「英語が話せる」にプラスする！

英語カリキュラム

基礎 英語基幹プログラム

英語の基礎をしっかり学ぶ

授業例：Power-up Tutorial
(学生4人対教員1人の超少人数教育) など

発展 専攻言語プログラム

4技能(話す、聞く、読む、書く)に加え、
問題解決に必要な議論する力を習得

授業例：Critical Reading、
Argumentation & Debate など

複言語カリキュラム

複言語プログラム

初級→中級→上級と段階的に学習。

複数の言語の使い手を目指す。

英語

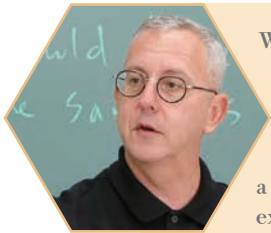
ただの英会話でない英語学習で、実践的に英語が使える人材を育成

OUTLINE

学科独自の「専攻言語(英語)プログラム」では世界情勢について「英語で」議論し、知識や批判的思考力を習得。自分の意見で人を説得し、世界の人々と共に理想を実現する高度な英語コミュニケーション能力を身につけます。

INTERVIEW

Paul CRANE 教授 「Collabo English Curriculum」



With a strong emphasis on developing students' critical thinking skills, the Collabo English curriculum is designed to challenge students by encouraging them to research and understand various local and global issues. This is accomplished through coordinated and integrated English courses that focus on content-integrated language learning that helps students deepen and strengthen their knowledge and understanding about those issues.

Starting from reading authentic news articles in the Critical Reading for Global Issues classes, students develop a foundation of knowledge about global issues that helps them to form their opinions which they learn how to express in formal academic-style essays in the Writing and Presentation classes. Furthermore, the students have many opportunities to not only discuss their opinions and ideas, but they also learn how to debate about them in their Argumentation and Debate classes.

Are you ready to challenge yourself and learn how to become a globalized citizen with the ability to think critically and develop new perspectives? Then take the Collabo English challenge!

PICK UP!

中山 ナタリア ジュリさん 「英語の授業で学んだこと」



世界共生学科の専攻言語プログラムを紹介します。1年生のCritical Readingでは、「Causes and Effects of Climate Change(気候変動)」や「Effects of Hosting the Olympic Games(オリンピック開催)」など、最新のテーマをアカデミックな英文で学びます。そして、2年生のArgumentation & Debateでは、学びの蓄積を生かして、「Child Labour(子どもの労働)」や「Death Penalty(死刑制度)」など国際的に課題になっているテーマについて議論します。賛成・反対の意見をぶつけ合い、クラスメイトから様々な意見を聞くことができました。3年生のDiscourse & Analysisでは、自分自身の知見をアカデミックな英文のエッセイとして書き上げました。そうすることで英語力が高まるとともに、統計や専門家の論文を読んだ的確に情報を収集、論理的に表現できるようになりました。このプログラムの魅力は、全ての授業のトピックが共通し、テーマをより深く掘り下げ、物事を多面的に見る力がつくことです。

大学入学当時にTOEICのスコアは790点あり満足していましたが、このプログラムを受けることで、3年生の4月には880点にまで伸びていました。さらに、今世界が直面している課題に向き合えるようになり、自分の考えや日常生活を見直せただけでなく、留学生や国内外の友人と意見交換する際にも活かしました。

複言語

言語は、複数できるのがあたりまえ！

さまざまな言語を学びながら、文化の多様性に対する理解力を磨くのが「複言語プログラム」通称PLP(Plurilingual Program)。国連公用語すべてと、経済発展の著しいアジア諸国の言語をカバーした11言語(ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語、インドネシア語、タイ語)から選択できます。

グローバルリサーチ

言語のみでなく地域に関する専門知識を身につけ、
その地域のスペシャリストとなる

2つのコース × 6つのリージョン = 12通りの学びで、地域に関する専門知識を身につける。

コース科目

国際 ガバナンス コース

「理想現実力」を鍛える

授業科目例：多国間外交と平和、国連の理念と活動、
共生ビジネス、多文化マーケティング など

グローバル 共生 コース

「共生協働力」を鍛える

授業科目例：共生の社会心理、援助の理念と活動、
多文化コミュニケーション、ジェンダーと開発 など

リージョナルスタディーズ

ヨーロッパ

ユーラシア

アングロ
アメリカ

6つのリージョン

中東・
アフリカ

アジア・
太平洋

イベロ
アメリカ

アカデミックスキルズプログラム

授業科目例：Academic Skills I、Academic Skills II

情報収集
分析

プレゼン
テーション

討論

レポート

アカデミックスキルズプログラム

「大学生らしく学ぶ」ためのスキルを学ぶ

OUTLINE

大学へ進学し、「生徒」から「学生」になりました。さて、どうやって勉強すればいいんでしょうか？
1年次の「アカデミックスキルズ」では、複眼的視点に裏付けられた判断力を持ってプレゼンテーションをしたり、
レポートを書いたりすることで、大学での学びに必要な、社会問題の分析に不可欠な技術を身につけます。

コース科目

多文化共生の実現

OUTLINE

2年次から始まる「コース科目」では、どちらかのコースに軸足を置きながら、自分の志向に合わせて科目を選択することが可能です。「国際ガバナンスコース」では共生の枠組みづくりに欠くことのできない国際政治や経済を、「グローバル共生コース」では多文化共生に必要な人間心理やコミュニケーションを学びます。

リージョナルスタディーズ

世界の今を、理解する

OUTLINE

世界共生学科では、世界を「リージョン=生活文化圏」で分類します。「リージョン」を学ぶ「リージョナルスタディーズ」では、地域を複数学ぶことで、世界を「複眼的に捉える力」を身につけます。
2年次で6つのリージョンから3つを選択し、基礎知識を習得したうえで最新の動向や近年の課題について議論します。
そして3年次、ゼミナールとして1つの地域を専門的に研究し、その地域のスペシャリストとなります。

INTERVIEW

B.R. カンデル 教授 「アジア・太平洋地域」

皆さんは、南アジアのことを知っていますか？ 18億人以上の人々が暮らし、これからの世界経済の成長をリードしていく地域です。特にインドの急成長は世界でも注目されています。2023年に開通を目指すインド初の新幹線は、日本の新幹線技術を採用。実は日本との関係も深いのです。そんな南アジアの歴史や政治、経済、文化を学び、未来の世界で生き抜く力を身につけましょう。

地田 徹朗 准教授 「ユーラシア地域」

ロシアってどんな国でしょう？ お隣さんなのに考えていることがよく分からない、そんなイメージではないでしょうか？ 世界の国や地域、そこに住む人々の行動には、我々の常識とは異なるロジックが必ずあります。「ユーラシア地域」の授業では、ロシアを中心とするユーラシアの国々の歴史・政治・経済・国際関係・環境問題などトピック別に学習することで、その背後にある地域のロジックについて学びます。



グローバルチャレンジ

多文化共生の実情と課題を現場で考察する
アクティブな経験

地域創生科目

フィールドワークを通して多文化共生や国際開発・地域開発の実情と課題を知る

OUTLINE

「地域創生科目」は、フィールドワークを通して多文化共生や国際開発・地域開発の実情と課題を知る科目です。短期間で現地の「課題を解決する」ことを目指すものではありません。地域の諸課題を解決する主体はあくまでも地元の方々です。みなさんは、実際に現場に行き、地元の方々とコミュニケーションや調査、協働を通して地域の実情と課題を正確に把握するだけでなく、地元の方々と課題解決のための基礎的手法（アプローチ）を考察します。これまでの実績として国内では「長野県南木曾町」「岐阜県中津川市 馬籠・本町」「北海道白老町」「兵庫県神戸市」「愛知県名古屋市」、国外では「ベトナム（ホアビン）」「フィリピン（マニラ）」「アメリカ（ハワイ）」などで活動しています。詳細は地域創生科目特設ページでご確認ください！

特設サイト



PICK UP!

島村 美鈴さん

「地域創生科目 グローカル・コラボレーション（ハワイ）」



18世紀後半以降多民族社会を形成してきたハワイで、フィールドワークを通してその多文化社会について学ぶとともに、歴史的な多民族社会だからこそ抱える問題について考える機会となりました。研修前半は先住ハワイ人文化が残るマカハ地域で、後半はホノルル市内で過ごし日本やアメリカ本土が進めたリゾート開発によって生み出される経済的利益とそれと相反して奪われた先住民文化や自然について考えを深めました。またオアフ島内の様々な地域に向かうことで軍事基地の影響や貧困問題といった課題、第二次世界大戦前後の日系人の歴史と現在も知ることができ、多文化社会のより深い理解につながりました。



授業外・学外での活動

国内外で、アクティブに

PICK UP!

山本 裕佳さん 「UCR 特別留学」



UCR 特別留学でディズニーキャストとして毎日多様な背景を持つゲストと接することは大変なこともありましたが、しかし、1人1人のゲストとの時間を大切に、「忘れられない思い出をありがとう」と言ってもらえたことで英語力だけでなく、即戦力・適応力の面での成長も感じられました。また、「幸せを届ける」立場の自分が日々ゲストや同僚から「幸せにしてみよう」立場でもあることに気付かせてもらえました。そんな素敵な体験をできた Walt Disney World は私にとってまさに「夢の国」です。



PICK UP!

早 尚輝くん 「春期オーストラリア研修」



1ヶ月間の研修の中で、グリフィス大学での授業と企業でのワークエクスプレィエンスを通して非常に密度の濃い時間を過ごせました。自分にとって初めての海外渡航は正直不安が多く、日本との文化の違いや英語しか聞こえない環境にショックを受け初日は戸惑いを隠せませんでした。それでも、慣れない環境で過ごしたこの経験は広い視野で物事を考える力や課題解決力を確実に成長させてくれました。また英語学習の意欲を向上させるきっかけとなり、今では長期留学を目指し勉強に励んでいます。



INTERVIEW

世界共生学科長 小野 展克 教授

「一人ひとりの学生の就職活動を『徹底支援』します」



名古屋外国語大学は2020年、キャビンアテンダントの採用実績が中部地区で1位（全国6位）となりました。（キャビンアテンダント採用ランキング〈2019・大学通信調べ〉）学内の教育や留学経験等を通じて身に付けた語学力やプレゼンテーション能力、国際的な視野が、航空業界を筆頭に国内外の様々な有力企業に高く評価されています。そうした中、世界共生学科では、多文化共生社会で活躍できる人材の育成を目指して、グローバルな舞台で働ける力をアクティブな学びで磨いています。グローバル企業、国際機関、エアライン、マスメディア、官公庁などへの就職を念頭に、社会経験豊富な教員チームが一人ひとりの学生を徹底支援します。

1965年生まれ。慶應義塾大学文学科社会学専攻卒。博士（経営管理）。共同通信で日銀キャップ、経済部次長を歴任。「黒田日銀 最後の賭け」（文春新書）、「JAL 虚構の再生」（講談社文庫）など著書多数。